

国立女性教育会館

2012(平成24)年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」募集ワークショップNo.25

「男女共同参画をもっと魅力的にアピールするための行列のできる講座とチラシの作り方」

「講座の集客」に関するアンケート

まとめ

2012年8月25日
講座企画塾

1. 講座の企画・実施にあたって、特に留意していることはどんなことですか。

◆館の目的にあった事業を行う

- * 女性会館がやるべき企画であるかどうか。
- * 男女共同参画の視点で今日的な社会問題をテーマにとりあげること。
- * 市の第2次男女共同参画推進計画にのった講座内容であり、市民の方々が参加しやすく、取り組みやすいものとしている。
- * 年度計画に沿った内容であること。
- * 事業ごとの目的に沿って企画し、円滑な実施に努めている。

◆講座の狙い・目的を明確にする

- * だれに何を伝えたいか、だれにどうなってほしいか、という趣旨・目的をはっきりさせ、それがブレないように意識しながら企画するように心がけている。
- * 受講後の結果がわかるタイトルをつけること。
- * 参加したくなるようなタイトル名（にする）。
- * 講座の目的を明確にし、対象者に届く企画。
- * 何を聞いてほしいか、何を伝えたいか、講座の狙いを明確にして、受講者側の視点に立って企画するように心がけている。

◆対象者を絞り込み、ニーズにあった企画を立てる

- * 受講生としてどのような層を対象とするかを企画段階から明確にすること。
- * 対象とする年代の特性、ニーズに合わせて企画するよう留意している。
- * 人気がある分野で年に何度か開催する場合、満足度がさらに高められるよう、ニーズに応じた講座内容・対象者に分けるようにする。
- * 地域のニーズ＝対象を絞る。
- * 現状を踏まえ、ニーズに合った企画内容になっているか。

- * 対象者が参加しやすい条件設定になっているか。（日時、一時保育など）
- * 開催曜日・時間が対象者にとって都合がよいものであること。（毎回アンケートを実施し、参加しやすい曜日・時間を常に調査している）
- * 講座の対象となる人が来られる曜日・時間帯を設定している。（例：就業中の人を対象→土曜日、子育て中の専業主婦を対象→平日の午前中）
- * 「パパといっしょにクッキング」は、パパの参加しやすい土曜日に開催。家庭で作りやすく、子どもにも好まれるメニューにした。

◆その他

- * 問題解決型事業。
- * 市民の目線に立った企画。
- * 真新しい内容、講師の招へい。
- * 内容とそれにふさわしい講師かどうか。
- * 託児の保障。
- * 講座の開催趣旨に沿った受講生の確保。
- * パソコン講座等の実技講座では、受講生の同等のレベルの確保。
- * 対象者を限定しない講座の場合、どうしても中高年世代の方々からの問い合わせや申し込みが多いので、そうした方々が関心を持ちやすそうなタイトル・テーマを多くしています。また、そのままだと参加の少ない若者世代向け、男性向けの講座を別に実施するようにしました（H21年度～）。
- * 女性センターの講座が年間を通じて定期的に開催されるよう各係間で開催時期などを調整している。

◆運営上の配慮・工夫

- * 講座の中でワークショップや質疑応答などを必ず入れ、講義を聞くだけのものにならないように心がけている。
- * 参加者が求めていることを把握し、実際にその講座で「学び」や「ヒント」を持ち帰られるような講座の流れ・運営ができているか。
- * エンパワーメント塾では、学び合った仲間とつながり、実践していくために、毎回の講座の中で気づき、ふりかえり、共有を積み重ね、“共に学び合う”ことを大切に考えている。また、講座での講義・グループワーク・ふりかえりのほか、毎回の受講生による係の分担や講座通信の編集作業などを通して、受講生個々の、また全体でのエンパワーメントを培うよう心掛けている。

2. 講座の広報・PRに関して、何か特に工夫をされていることがありますか。

◆基本的な広報ツールの活用

- * 県内の公共施設にチラシの配布を依頼。
- * 県や市町の広報媒体の活用、またはその他の広報媒体の活用。
- * 市の広報誌・HPへの掲載、公共施設へのチラシの配布など、目に触れる機会を可能な限り実施している。
- * 市広報紙への掲載、市関連施設へのチラシ配架。
- * 市の広報（市内全戸配布）への講座案内掲載と受講者募集をしている。
- * マスコミへの広報。
- * 新聞・ミニコミ誌への掲載依頼。
- * 新聞、CATV、フリーペーパーなどの無料掲載を利用している。
- * 当館がもつ情報ツール（ホームページ、ニュースレターなど）を活かしながら発信している。
- * 電子メール配信の活用。
- * 施設全階へのポスターの掲示、チラシを自由にお持ち帰りいただけるよう配架。
- * ご利用者へ施設利用時にチラシを渡し、広く周知のご案内（をする）。

◆地域団体や市民グループとの協力

- * 関係機関と連携・協力いただきながらPRする。
- * 市民団体のイベント情報サイトに講座情報を掲載してもらうなど連携を図っている。
- * 市の出先機関のほか、対象者により地区内の活動センターをはじめ、チラシなどを依頼している。
- * その講座の対象者に合う施設・団体などに向けての広報に力を入れている。
- * 当センターが比較的不便な場所に位置しているため、会場を当センターに限定せずを実施する講座を増やしています。その際、開催地の市町村や地域グループ、公民館などと必ず連携するようにしたことで、地元の方々の参加者数が確保できるようになりました。

◆これまでの講座受講者へのお誘い

- * 講座によっては、一般募集のほか、(過去に実施した講座の)受講経験者に特別案内をしている。
- * 講座履修生への案内をしている。
- * 受講経験者に声かけし、口コミに協力してもらう。
- * 講座の受講者に次回講座のチラシを配っている。

◆対象者にあわせて広報媒体を変える

- * 講座の内容や対象者に応じて、チラシ配布先を変えている。
- * 講座の対象者ごとに広報の方法や媒体などを変

えている。

- * ターゲットにあった広報手段・チラシ送付先を考える。
- * 対象にふさわしい媒体を、広報、地元新聞のほかにプラスして使う。(例：中高年男性→NHKのラジオ、中高年女性→無料のタウン誌)

◆その他の工夫

- * 受け手目線での情報発信に努めている。
- * 講師にも広報をしていただく。(講師のHPなど、ツールの活用や、チラシの直渡しなど)
- * 今年度途中より、チラシに講座申し込みフォームのQRコードを掲載している。
- * 講座募集チラシにQRコードを印刷し、携帯電話から簡単に申し込みができるようにしている。
- * これまで当センターを利用されたことのない方からの応募を増やすため、ミニコミ誌に掲載が可能となるよう、なるべく2か月前から広報開始する。
- * 「パパといっしょにクッキング」は、チラシに、以前参加してくださった方々の写真を掲載し、講座内容をイメージしやすいように工夫した。
- * 「男女共同参画」という言葉を前面に出すとまだまだ敬遠される傾向にあるため、入りやすい言葉をテーマに用いる。

★「講座企画塾」のホームページの中の「全国の元気な女性センターと講座情報」のページについて

- * 講座企画に行き詰まったときのヒント探しに役立らせていただいている。
- * 当センターも紹介していただいて、ありがとうございます。各センターさんの過去のセミナー情報をよく参考にさせていただいています。
- * 元気なセンターの中に入れていただき光栄です。一層充実した事業展開を目指したいと思います。

★「講座企画塾」のホームページの中の「行列ができる！講座とチラシの作り方」のページの中の「チラシ手直し before・after 事例集」のページについて

- * チラシの中で強調させたい部分の表現方法(装飾・デザインなど)やインパクトの与え方がすごく勉強になっている。
- * とても勉強になります。(行政側にはストレートなマーケティング発想へのアレルギー的な感覚もあり、そのまま活用できない場合も結構ありますが…)
- * チラシの作り方セミナーを受講させていただき学んだことを仕事に役立てています。